

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	俳句 青葉若葉 : 文苑
Author(s)	呼雲; 雨城; 百日紅; 南斗; 双松; 紫村; 藤坊
Citation	龍南會雜誌, 9 2 : 4 0 - 4 1
Issue date	1902-05-31
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5339
Right	

青葉若葉

釣たるゝ岸の夕や藻の薫る
五月雨の晴間や月の大井川
藻の花やうたげの船に風かをる
耻らひて女うつむく筑摩鍋
日てらてら銀杏城の若葉哉
五月雨の樟脳匂ふ簞笥哉
見るうちに橋の落ちけり五月雨
橋杭を流して早し五月雨
干す蚊帳に柿の花散る垣根哉
羽蟻のうるさく来る書齋哉
短夜やとなりの室のはなし聲
雨雲や驛の夕羽蟻飛ぶ
藻の花や屋敷に這入るささ流
藻の花に生き上りたる目高哉
雨晴れて若葉の山の匂ひ哉
もの花に蛙洒然と浮いて居る
初夜や天狗が舞ふる峯の松

蘇同同同同同同百同同同同雨同同同呼
劫紅城雲

はるはると柿の花散る簾
五雨に灯小暗らき書院哉
僧房に夕日のあたる若葉哉
澁柿の花が散るなり午の雨
雲上る四十四谷の若葉かな
風流の歌よむ男柿の花
日のあたる柿の若葉や南風
若葉すら老木櫻や二月堂
藻の花の水にしばんで流れけり
青梅や雨水たまる石の鉢
取り出す袂のものやふる袷
病室の窓近く梅の黄みけり
短夜を二時交替の看護哉
傾城のくわへ楊子や絹袷
神殿の千木高知りて若葉哉
寫生する右岸左岸の若葉哉
つみこみの杉の若葉や庵の門
藻の花のり捨てゝある藻刈舟

同同同同同同同南同同同同同同同同同同同
斗

藻の花や頭つきだすかいつぶり 同
 誓ひ來な筑摩の神に鍋一つ 同
 顔洗ふ鹽に散るや柿の花 同
 ものうさの筑摩祭や雨が降る 双
 五雨やあかくりに行く小灯 松
 干飯する藁の蓆や柿の花 同
 もの花や浅く澄みたる出水川 同
 もの花や鮒を養ふたる竹矢來 同
 白鳩の若葉山越す夕日かな 同
 芝笛の今様を吹く若葉哉 同
 明け易き無締の戸や安旅籠 同
 新妻の平常裕やいたいたし 紫
 糊つけの袷屢々膝の出る 村
 風ないで島の燈臺明け易き 同
 供へたる榊若葉や灯のうつる 同
 水黒く浮藻花さく山の池 同
 重ねては重き思ひや鍋祭り 同
 紫溟吟社は、さきに夏目漱石先生を仰で我
 校の先輩千江、紫川、白楊諸氏によりてなさ
 れしもの、ひろく諸部を通じて社員をつの

る、委細は雑誌部委員谷口保太郎氏迄御掛
 合あれよ
 紫溟吟社

